

平成 26 年 11 月 16 日 (日) 施行

第 138 回 日商簿記検定試験 2 級 解説

第 1 問

1. 全焼時の建物の帳簿価額：建物－減価償却累計額＝ $¥5,000,000 - ¥3,200,000 = ¥1,800,000$
これは火災保険の総額 $¥2,000,000$ を超えていないので、全額火災未決算に計上する。
2. 受取手形 $¥80,000$ を不渡手形に振り替える。この際、償還請求に伴う費用 $¥2,000$ も合わせて不渡手形に計上する。
3. 販売基準なので、商品の引渡時に収益 $¥270,000$ を計上する。
4. 商品保証引当金残高が $¥150,000$ なので、修理代金 $¥60,000$ を商品保証引当金から取り崩す。
5. $¥500,000 \times 8\% = ¥40,000 \rightarrow$ 仮払消費税

第 2 問

2. 剰余金の配当

配当額： $20,000 \text{ 株} \times @ ¥100 = 2,000 \text{ 千円}$

資本金 $\div 4 = 10,000 \text{ 千円}$

資本準備金＋利益準備金＝ $5,000 \text{ 千円} + 2,000 \text{ 千円} = 7,000 \text{ 千円}$ より、あと $3,000 \text{ 千円}$ 積立が必要である。資本金 $\div 4$ の金額に至るまで配当金の $1/10$ 相当額 (200 千円) を積み立てる。

および、新築積立金 400 千円 と合わせて繰越利益剰余金を取り崩す。

(借) 繰越利益剰余金	2,600	(貸) 未払配当金	2,000
		利益準備金	200
		新築積立金	400

3. 増資

増資額： $5,000 \text{ 株} \times @ ¥3,000 = 15,000 \text{ 千円}$

資本金への計上は会社法で規定する最低額 ($2 \text{ 分の } 1$) より

(借) 当座預金	15,000	(貸) 資本金	7,500
		資本準備金	7,500

4. 吸収合併

合併の対価としての株式の交付 $8,000 \text{ 株} \times @ ¥3,200 = 25,600 \text{ 千円}$

(借) 諸資産	100,000	(貸) 諸負債	74,400	} 25,600 千円
		資本金	10,000	
		資本準備金	12,000	
		その他資本剰余金	3,600	

5. 当期純利益

(借) 損益	900	(貸) 繰越利益剰余金	900
--------	-----	-------------	-----

第3問

未処理事項

1. 貸倒れの処理

(借) 貸倒引当金	4,000	(貸) 売掛金	4,000
-----------	-------	---------	-------

2. 電話料の引き落とし

(借) 通信費	15,000	(貸) 当座預金	15,000
---------	--------	----------	--------

3. 返品処理

(借) 売上	30,000	(貸) 売掛金	30,000
--------	--------	---------	--------

決算整理事項

1. 期末商品の評価

帳簿棚卸高には①返品分の原価¥22,000と②期末日直前仕入の¥20,000は反映されていない。

②は掛仕入の記入漏れである。

(借) 仕入	20,000	(貸) 買掛金	20,000
--------	--------	---------	--------

帳簿棚卸高は $¥2,200,000 + ¥22,000 + ¥20,000 = ¥2,242,000$

実地棚卸高には①②は反映されているが、返品未処理分に商品評価損が生じている。

商品評価損： $¥22,000 - ¥11,000 = ¥11,000$

実地棚卸高： $¥2,232,000 - ¥11,000 = ¥2,221,000$ (商品)

また、帳簿棚卸高と実地棚卸高の差額は $¥2,242,000 - ¥2,221,000 = ¥21,000$

このうち¥11,000は商品評価損であるから、残りの¥10,000が棚卸減耗費である。

(借) 仕入	2,350,000	(貸) 繰越商品	2,350,000
繰越商品	2,242,000	仕入	2,242,000
商品評価損	11,000	繰越商品	11,000
棚卸減耗費	10,000	繰越商品	10,000

売上原価： $¥2,350,000 + (¥19,000,000 + ¥20,000) - ¥2,242,000 = ¥19,128,000$

商品： $¥2,242,000 - (¥11,000 + ¥10,000) = ¥2,221,000$

2. 貸倒引当金の計上

未処理事項1と3より、売掛金の期末残高は $¥1,200,000 - (¥4,000 + ¥30,000) = ¥1,166,000$

受取手形の残高は¥200,000より、貸倒引当金設定額は

$(¥1,166,000 + ¥200,000) \times 1\% = ¥13,660$ (貸倒引当金)

また、未処理事項1より、決算整理前の貸倒引当金は $¥6,000 - ¥4,000 = ¥2,000$

よって貸倒引当金繰入額 $¥13,660 - ¥2,000 = ¥11,660$

(借) 貸倒引当金繰入	11,660	(貸) 貸倒引当金	11,660
-------------	--------	-----------	--------

3. 買掛金から前渡金への振替

買掛金が借方残：実際の仕入債務より¥120,000多く払っている→(前渡金)

(借) 前渡金	120,000	(貸) 買掛金	120,000
---------	---------	---------	---------

また、決算整理事項1②より、買掛金に¥20,000の計上漏れがあるので、買掛金の残高は

$¥2,400,000 + ¥120,000 + ¥20,000 = ¥2,540,000$ (買掛金)

4. 前期末払費用の再振替

(借) 未払費用	210,000	(貸) 給料	150,000
		水道光熱費	60,000

当期末の未払費用

(借) 給料	165,000	(貸) 未払費用	228,000
水道光熱費	63,000		

解答の未払費用には、これに決算整理事項7の未払利息額も合わせて計上する。

5. 前払費用の処理

11月1日に1年分¥180,000(¥15,000/月)を前払いした。

2月末までの4ヶ月間の保険料の処理は行われているので、決算月の処理を行う。

(借) 保険料	15,000	(貸) 前払費用	15,000
---------	--------	----------	--------

前払費用：¥120,000－¥15,000＝¥105,000

6. 減価償却費

①4月～2月(11か月間)に以下のとおり減価償却費が見積計上されている

建物 ¥75,000×11ヶ月＝¥825,000

備品 ¥1,000×11ヶ月＝¥11,000

さらに、3月分を計上する

(借) 減価償却費	76,000	(貸) 建物減価償却累計額	75,000
		備品減価償却累計額	1,000

②修繕費¥840,000を建物勘定に振り替える

(借) 建物	840,000	(貸) 修繕費	840,000
--------	---------	---------	---------

さらに完了日(平成26年2月1日)から決算日まで2ヶ月間の減価償却を計上する。

$(¥840,000 / 20年) \times (2ヶ月 / 12ヶ月) = ¥280,000$

(借) 減価償却費	7,000	(貸) 建物減価償却累計額	7,000
-----------	-------	---------------	-------

①②より

建物：¥27,000,000＋¥840,000＝¥27,840,000

備品：¥520,000(決算整理前残高試算表残高)

建物減価償却累計額：¥17,925,000＋¥75,000＋¥7,000＝¥18,007,000

備品減価償却累計額：¥471,000＋¥1,000＝¥472,000

7. 借入金

返済期日は1年以内に到来するものを短期借入金、それ以外を長期借入金とする。

借入から1ヶ月が経過している。

(借) 借入金	12,500,000	(貸) 短期借入金	7,500,000
		長期借入金	5,000,000

①短期借入金：¥7,500,000(返済期日：平成27年2月28日 借入期間1年)

$¥7,500,000 \times 1.8\% \times (1ヶ月 / 12ヶ月) = ¥11,250$

②長期借入金：¥5,000,000（返済期日：平成29年2月28日 借入期間3年）

$$¥5,000,000 \times 2.4\% \times (1 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月}) = ¥10,000$$

①②より未払利息（未払費用）：¥21,250

(借) 支払利息	21,250	(貸) 未払利息	21,250
----------	--------	----------	--------

これと、決算整理事項4より、解答の未払費用：¥228,000 + ¥21,250 = ¥249,250

8. 退職給付

当期の負担分¥40,000 退職給付引当金が増加する。

(借) 退職給付費用	40,000	(貸) 退職給付引当金	40,000
------------	--------	-------------	--------

退職給付引当金：¥390,000 + ¥40,000 = ¥430,000

9. のれんの償却

償却期間は当期首までに5年経過→残存償却期間15年

$$¥180,000 / 15 \text{年} = ¥12,000$$

(借) のれん償却	12,000	(貸) のれん	12,000
-----------	--------	---------	--------

のれん：¥180,000 - ¥12,000 = ¥168,000

10. 法人税の処理

損益計算書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

(単位：円)

売上原価	19,128,000	売上高	24,005,000
商品評価損	11,000	受取利息	5,910
棚卸減耗費	10,000		
給料	1,765,000		
旅費交通費	120,000		
水道光熱費	543,000		
通信費	175,000		
保険料	195,000		
修繕費	160,000		
減価償却費	919,000		
支払利息	321,250		
貸倒引当金繰入	11,660		
退職給付費用	40,000		
のれん償却	12,000		
(税引前)当期純利益	600,000		
	24,010,910		24,010,910

法人税等：¥600,000 × 40% = ¥240,000

(借) 法人税等	240,000	(貸) 仮払法人税等	140,000
		未払法人税等	100,000

繰越利益剰余金：¥1,400,000 + ¥360,000（税引後当期純利益） = ¥1,760,000

第4問

(1) 当期分直接材料費

$$\#11001 + \#11002 + \#11003 = (850\text{kg} + 1,240\text{kg} + 1,100\text{kg}) \times 500\text{円} = 1,595,000\text{円}$$

(2) 製造間接費の予定配賦

$$\text{固定費率} : 8,100,000\text{円} / 18,000\text{時間} = 450\text{円} / \text{時間}$$

$$\text{変動費率} : 280\text{円} / \text{時間}$$

$$\text{予定配賦率} : 450\text{円} + 280\text{円} = 730\text{円} / \text{時間}$$

$$\#11001 + \#11002 + \#11003 = (420\text{時間} + 610\text{時間} + 380\text{時間}) \times 730\text{円} = 1,029,300\text{円}$$

(3) 完成した製造指図書を集計

仕訳には製造指図書#11001と#11002の製造原価合計額を求めればよいので、各製造指図書個別の製造原価の計算は必要ない。

	#11001	#11002	単価	合計
月初仕掛品原価	311,000円			311,000円
直接材料費	(850kg)	(1,240kg)	500円	1,045,000円
直接労務費	(200時間)	(350時間)	1,100円	605,000円
製造間接費	(420時間)	(610時間)	730円	751,900円
製品製造原価				2,712,900

(4) 消費価格差異

当月消費した材料は $850\text{kg} + 1,240\text{kg} + 1,100\text{kg} = 3,190\text{kg}$

先入先出法より、期末棚卸材料の単価は540円である。

材 料			
338,000円	650kg × 520円	3,190kg	329,400円
1,701,000円	3,150kg × 540円		
	610kg × 540円		

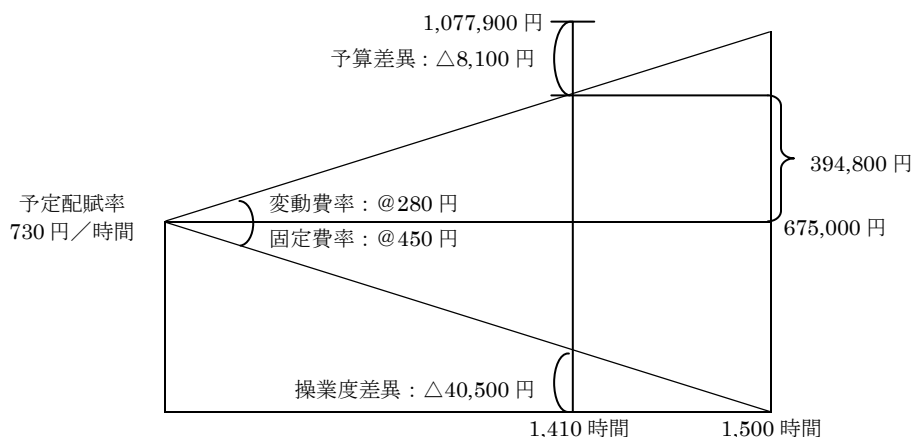
実際材料消費高は $338,000\text{円} + 1,701,000\text{円} - 329,400\text{円} = 1,709,600\text{円}$

予定材料消費高は $3,190\text{kg} \times 500\text{円} = 1,595,000\text{円}$

材料消費価格差異 : $1,595,000\text{円} - 1,709,600\text{円} = \triangle 114,600\text{円}$

(5) 製造間接費差異

年間固定費 / 12ヶ月 = 675,000円 / 月 年間予定機械稼働時間 / 12ヶ月 = 1,500時間 / 月



第5問

問1 正常減損が終点で発生する場合

原料費	1,600,000 円	800	3,000
加工費	749,500 円	(400)	
原料費	7,520,000 円	3,200	200
加工費	7,573,700 円	(3,200)	800 (400)

①月末仕掛品原価（平均法）

$$\text{原料費単価} : \frac{1,600,000 \text{ 円} + 7,520,000 \text{ 円}}{800 \text{ kg} + 3,200 \text{ kg}} = 2,280 \text{ 円/kg}$$

$$\text{加工費単価} : \frac{749,500 \text{ 円} + 7,573,700 \text{ 円}}{400 \text{ kg} + 3,200 \text{ kg}} = 2,312 \text{ 円/kg}$$

$$\text{原料費} : 2,280 \text{ 円} \times 800 \text{ kg} = 1,824,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費} : 2,312 \text{ 円} \times 400 \text{ kg} = 924,800 \text{ 円}$$

$$\text{月末仕掛品原価} : 1,824,000 \text{ 円} + 924,800 \text{ 円} = 2,748,800 \text{ 円}$$

②完成品原価

$$\text{原料費} : 1,600,000 \text{ 円} + 7,520,000 \text{ 円} - 1,824,000 \text{ 円} = 7,296,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費} : 749,500 \text{ 円} + 7,573,700 \text{ 円} - 924,800 \text{ 円} = 7,398,400 \text{ 円}$$

$$\text{完成品総合原価} : 7,296,000 \text{ 円} + 7,398,400 \text{ 円} = 14,694,400 \text{ 円}$$

問2 正常減損が工程の途中で発生した場合

原料費	1,600,000 円	800	3,000
加工費	749,500 円	(400)	
原料費	7,520,000 円	3,000	200
加工費	7,573,700 円	(3,000)	800 (400)

①月末仕掛品原価（平均法）

$$\text{原料費単価} : \frac{1,600,000 \text{ 円} + 7,520,000 \text{ 円}}{800 \text{ kg} + 3,000 \text{ kg}} = 2,400 \text{ 円/kg}$$

$$\text{加工費単価} : \frac{749,500 \text{ 円} + 7,573,700 \text{ 円}}{400 \text{ kg} + 3,000 \text{ kg}} = 2,448 \text{ 円/kg}$$

$$\text{原料費} : 2,400 \text{ 円} \times 800 \text{ kg} = 1,920,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費} : 2,448 \text{ 円} \times 400 \text{ kg} = 979,200 \text{ 円}$$

$$\text{月末仕掛品原価} : 1,920,000 \text{ 円} + 979,200 \text{ 円} = 2,899,200 \text{ 円}$$

②完成品原価

$$\text{原料費} : 1,600,000 \text{ 円} + 7,520,000 \text{ 円} - 1,920,000 \text{ 円} = 7,200,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費} : 749,500 \text{ 円} + 7,573,700 \text{ 円} - 979,200 \text{ 円} = 7,344,000 \text{ 円}$$

$$\text{完成品総合原価} : 7,200,000 \text{ 円} + 7,344,000 \text{ 円} = 14,544,000 \text{ 円}$$